



神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
(1989-2022)

CONTENTS

●2023年 湘南ひらつかキャンパス移転

ありがとう！平塚図書館

－2010年から2022年まで－ 2頁

●2022年度 横浜図書館展示報告 6頁

●図書館の所蔵資料紹介

〈医者と医学〉オノレ・ドーミエ 政治風刺画作品集 7頁

●図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 8頁

2023年 湘南ひらつかキャンパス移転

ありがとう！平塚図書館

— 2010年から2022年まで—

前号では平成元年（1989年）に湘南ひらつかキャンパスの開設とともに設置された「平塚図書室」の当時の様子を振り返りましたが、今号では名称を「平塚図書館」にあらため、エリアを拡張してリニューアルオープンした2010年以降の図書館や図書館で実施したイベントを振り返ります。

増設された第2閲覧室には、多様化する学生の学修スタイルに対応できるよう、グループ閲覧室やセミナールーム、座席が独立したキャレル席も新たに設置されました。また、電動の集密書架を設置したことで、収蔵冊数も大幅に増やすことができました。

セミナールームでは、研究室やゼミナールでの授業時にデータベースセミナーを実施したほか、ポップ講座などのイベントも行いました。

近年では、自習等で図書館を利用してもらうだけでなく、大学のイベントと連携した関連テーマの展示や図書館スタッフによる様々なテーマの特設展示も実施し、多くの利用者が足を止めて見ていた光景が印象に残ります。

2022年度は平塚図書館最後の年でしたが10月の平塚祭やホームカミングデーの際に多くの在学生、卒業生に来館いただき特設展示やイベントを楽しんでいただきました。長年に渡り、平塚図書館をご利用いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

2010年 平塚図書館 配置図



「平塚図書館利用案内」より

■ セミナールーム



ポップ講座の様子

セミナールームは、セミナーやイベントがないときは、グループ閲覧室として開放していたため、多くの学生が利用していました。ポップ講座では各自が選んだ本のポップを制作しました。

■ 電動書架



第2閲覧室の目玉は電動書架でした。それまでは手動の集密書架だったため、電動での開閉は大変便利で、図書館見学の際に動かしてもらおうとその軽さに皆さん驚かされていました。

■ キャレルゾーン、個人ブース



第2閲覧室増設時、窓側にキャレル席も設置しました。左右と前方が仕切られているので、適度に集中できるのか、人気の高いエリアでした。

個人ブースは教員、大学院生の利用に限られていましたが、多くの利用がありました。

■イベント・展示等

インターナショナルウィークなど大学のイベントと連携しての特別展示や、図書館企画の各種展示を実施。2019年にはSHC 30周年記念展示やオープンキャンパスで試験的にロボットによる図書館案内も行いました。その他ゼミ単位で実施した選書ツアーでの選んだ図書の展示も行いました。



2017年[特設コーナー]
リトアニア・デイズ



2018年[特設コーナー] MALAYSIA

SHC 30周年記念展示



2019年にはSHC開設30周年を記念して、建設時や開設当時のキャンパスの写真を図書館内にも展示しました。

(その後1号館学生ラウンジ入口に展示)

2019年オープンキャンパス

オープンキャンパスで図書館の受付係をつとめた「キピロ君」年齢あてクイズでは利用者を喜ばせていました。



各種展示



世界の女性たち



ゼミナール選書



図書館スタッフおすすめ本



2022 平塚祭・HCD



図書館からも見える
SHCの景色



素晴らしい自然に囲まれた平塚図書館より今一度皆様にお礼を申し上げます。
今までのご愛顧、ありがとうございました。

2022 年度 横浜図書館 展示報告

2022 年 4 月リニューアルオープンした横浜図書館には展示ケースなどを新調した 2 F 展示コーナーができました。今後も一定のテーマのもとに数世紀前の貴重資料や普段は目にすることのないめずらしい資料を紹介していきます。改修後の新しい展示コーナーで 2022 年度に行った図書館展示を振り返ります。

横浜図書館リニューアルオープン展示

〈神奈川大学所蔵貴重資料でみる活字文化の 500 年〉

(会期：2022 年 4 月 - 5 月)

今から 500 年以上前、書物はドイツのマイnitz で発明された活版印刷技術によって速く大量に作られるようになりました。神奈川大学図書館には活版印刷の発明から間もない頃に作られた 15 世紀の書物をはじめ、19 世紀までの稀覯本を貴重資料として所蔵し保管しています。図書館リニューアルオープンを記念して活字文化の 500 年を物語る貴重な資料を展示しました。



〈地図に描かれた日本〉 (会期：2022 年 6 月 - 8 月)



実測による正確な日本列島の姿は、伊能忠敬の測量によって作成された 1821 年の「大日本沿海実測図」で初めて明らかにされました。地図の上に描かれた日本の姿は地図制作技術の発展とともに変化をとげています。展示では江戸時代の古地図や世界地図の中に描かれた日本の姿を図書館の資料（複製）で展示しました。

〈書物の華 - 口絵で楽しむ貴重資料〉

(会期：2022 年 10 月 - 12 月)

書物の冒頭を飾る「口絵」にはその本の内容をイメージさせる図像や著者の肖像画、読者を楽しませるように美しく彩色された風景画など様々なものが描かれています。威厳のある著者の姿やその書物の知的で豊かな世界を想像させる美しい図像を目にした当時の人々は、これから読み始める本に対する期待に胸を膨らませたのではないのでしょうか。展示では書物の冒頭を彩る様々な口絵を、主に 17 世紀から 19 世紀の貴重資料を中心に展示しました。



J.サヴァリ著「完全なる商人」口絵 1752 年刊

※ 2023 年度も様々な展示を行ってまいります。どうぞご覧ください。

《医者と医学》 オノレ・ドーミエ 政治諷刺画作品集

Doctors & medicine in the works of Daumier / Henri Mondor ; notes and catalogue by Jean Adhémar ; preface by Arthur W. Heintzelman., 1960

A726-55 (横浜図書館地下2階書庫)

画家ドラクロワの《民衆を導く自由の女神》は1830年フランスの七月革命を題材に描かれた作品である。この革命ではブルボン王家による復古王政が打倒され、絵画のように民衆が勝利を手にしたかに思えたが、新たに王位についたルイ・フィリップはブルジョアジーの不満のみを解消し、革命の主体であった多くの市民を失望させた。そのため人々の政治に対する不満は募り、革命後条件付きで出版の自由が実現したジャーナリズムの世界では、新聞による政治批判とそこに描かれた辛辣で皮肉のきいた政治諷刺画が市民の熱狂的人気を獲得した。その当時政治風刺画を描き、膨大な数のリトグラフ版画を残した画家のひとりにオノレ・ドーミエ (Honoré Daumier, 1808-79) がいる。

ドーミエは油彩画や塑像作品も手掛けたが、リトグラフ版画は約4000点も制作している。その才能を見出したのは自らも諷刺画を描くジャーナリスト、シャルル・フィリポンで週刊漫画誌「カリカチュール」や絵入り日刊諷刺新聞「シャリヴァリ」を創刊した人物である。「カリカチュール」誌に寄稿を始めたドーミエは1831年《ガルガンチュア(大喰い)》と題された大判リトグラフを制作し評判を呼んだが、頭が洋梨の形(間抜け、馬鹿の意味がある)をした国王ルイ・フィリップが金貨をむしゃむしゃと食べ、それに群がる高官、議員を描いた作品だったためドーミエは逮捕、投獄された。画家が24歳の時である。しかし六か月収監の後半はフィリポンの計らいで精神病患者という名目でカシミール・ピネル医師の療養所に送られた。ピネル医師は近代精神医学の父と呼ばれるフィリップ・ピネルの甥で、このリベラルな医師の療養所では平和主義者、共和主義者、画家などは劣悪な環境の監獄とは異なる良い環境で過ごすことができたという。

本書に収録されたドーミエの作品《疝痛》《頭痛》《医師》は、ピネル医師の療養所で描かれた。痛みに苦しむ者はドーミエ自身あるいはフィリポンまたは政治犯として投獄された者達を、そして彼らを苦しめる小鬼は検閲と抑圧を表していると推測される。そして《医師》はカシミール・ピネル医師である。この作品の中で、医師は自分の手を離れて監獄に戻された患者達の行く末が机の上で棺を作る警官や死体の列を率いる警官によって表されているのを憂鬱な顔で見つめている。

ドーミエは、その後も圧力に屈することなく生涯、政治や社会を諷刺する作品を描き続けた。

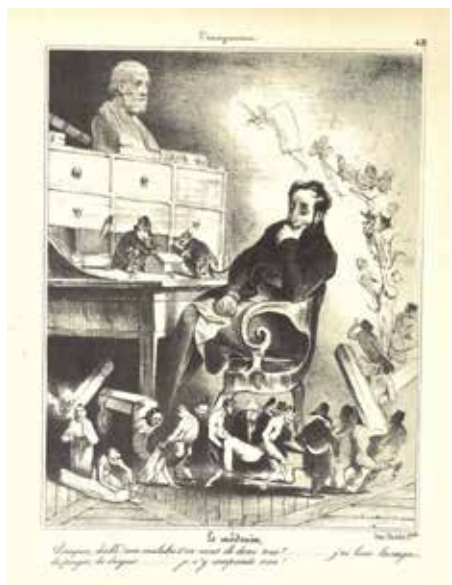
(資料サービス課 荻原 直子)



《疝痛》



《頭痛》



《医師》

図書館からののお知らせ

共通

■春季長期貸出期限日

2023年4月8日（土）

- ・返却期限日までに必ず図書館に返却してください。
- ・延滞すると延滞日数分（最長2週間）貸出停止になります。
- ・資料を汚損、破損、紛失した場合は、規則により弁償していただきます。

■図書館を利用する際は身分証が必要です。

入館ゲートを通るとき、退館するとき、図書を借りるときに身分証が必要です。

■ガイダンス

4月、5月に利用ガイダンスを行います。ガイダンスの内容については図書館ホームページをご覧ください。

■盗難への注意

貴重品（財布、携帯等）は席を離れる時、必ず身につけてください。

■館内マナーを守りましょう

- ・飲食は禁止です。ただし蓋付の飲み物に限り水分補給ができます。
- ・飲み物は机の上に置かず、鞆にしまってください。
- ・喫煙禁止
- ・スマートフォン、携帯電話はマナーモードにして、通話をご遠慮ください。
- ・他の利用者の迷惑になる行為は慎んで、静かに利用してください。

■旧平塚図書館所蔵の資料について

旧平塚図書館所蔵の資料の利用方法につきましては、運用が決まり次第、図書館ホームページにてお知らせいたしますので、ご確認ください。

編集後記

あとしばらくで、この不自由な息苦しい生活ともお別れできるようだ。2020年の初めに我々を襲った姿の見えない恐怖。今でも人の姿が消えたキャンパスの光景を思い出し辛くなる。二度とこのような経験はしたくないと願うばかりである。

流行り病というものは人類史上何度も発生し、消えていった。アメリカの作家ジェニファー・ライトによる『世界史を変えた13の病』（日本語版2018年刊）は、多くの人々が犠牲になった13の疫病について書かれた本だ。ローマ帝国滅亡の一因となった「アントニヌスの疫病」、突然踊り出し自分では止められず、死に至る者もいた中世の奇妙な「ダンシングマニア」、ここ数年その名前を耳にするようになった「スペインかぜ」。その他ペスト、天然痘、コレラ、エイズ等々の伝染病に人々がどう立ち向かい、あるいは混乱し愚かなふるまいをしたのかがユーモアを含めた軽妙な語り口で書かれている。

それぞれの疫病で記憶されるべき人々についても書かれている。ハンセン病の患者を隔離した島に移り住み、その生涯を捧げたダミアン神父。存命中はその正しさを認めてもらえなかったが、コレラの発生源を突き止め感染を止めたジョン・スノウ医師。当時の社会的弱者が多く雇ったダンシングマニアの患者たちを思いやり深く扱い、治癒させた共同体の人々。

最後に著者はこう述べている。疫病は我々全員に闘いを挑んでくる。自分達とは違うから自業自得だからと決めつけられた人達だけが襲われるものではないのだと。だから我々は優しさ賢さをもって、人間同士ではなく疾病と闘うことが何よりも大切なのだ、と。（N.E.）



今号の表紙

神奈川大学湘南ひらつかキャンパス

1989年に経営学部、理学部が開設された平塚キャンパスは、2001年に「湘南ひらつかキャンパス」と名称変更し、2023年3月横浜キャンパスに理学部が移転、その役割を終えた。写真は2017年頃に撮影されたキャンパスの桜並木。